とちぎ農産物クチコミ隊

私の母がミニトマトやキュウリなど小さな庭で作ってたりしていましたが、取るの専門だった子どもたちがラディッシュを一緒に植えてから“育てる”ことへ興味が持てるようになり、水やりをやりたがったりします。ラディッシュの芽が出たときの写真です。2-246 加藤美千代（志歩ちゃん）

昨年の夏休み中からいただいた“はつか大根”の種をプランターにまきました。雨以外の日は毎日水やりは子どものお世話でした。すぐに芽がピョンピョンでたのも子どもにとってはとてもうれしかったようですあいにく実のほうは大きく育たなかったけど、葉はうどんの具、みそ汁、吸い口の具に大活躍！！ちょうど台風の影響で葉物が高かった時は助かりました。183　高木晴美（写真は彩花ちゃんと咲苗ちゃん）

小さいプランターなので限界なのでしょうか？ それとも肥料が問題だったのか、少ししかできませんでした。次回に期待したいと思います。今回はお味噌汁にしましたが、せっせと水をあげて楽しみにしていた子供には少ししかなくて拍子抜けした感じ。次回の期待と責任の重さをひしひしと感じました。がんばります。　2208馬渡あつこ（りょうちゃんとくうちゃん）

“はつか大根”通信

ラディッシュ（はつか大根）のできはどうでしたか？　まだ種が残っているという方は、今の時期も大丈夫なのでぜひまいてみて！

秋までのはつか大根は、葉は大きく育ったものの、実はごらんの通り（写真上段２枚）。小さい！ハズカシイ！　そして満足に食べられるほどの実を育てるのはムズカシイことを改めて実感…。ところが遅ればせながら、大きくなりました。２月下旬、直径２ｃｍのものがゴロゴロと。３月下旬、間引きされて皿に栄養がゆきわたり、直径５ｃｍのものが２つできていました！（写真下段２枚）　辛みはなく、甘かったです！
2-6石神千賀（写真は槙也くん）

ラディッシュができました。発泡スチロールの箱を持ってきてベランダで栽培が始まりました。ラディッシュを見たことがなかった娘は、毎日、どのようになるのか楽しみにまっていました。いつのまにか葉をアオムシくんに全部食べられてしまった株もありましたが、なんとか食べられるまでに成長しました。種の袋にあるようなまん丸な物ではありませんが、サラダなどにしてみんなで食べました。楽しい経験ができました。ありがとうございます。2-243高野直子（写真は彬ちゃん）

とちぎ農産物クチコミ隊　とちぎに里芋と大根の収穫体験の旅

昨年の12月、「とちぎに里芋と大根の収穫体験バスの旅」を行いました。前日までの雨はうそのように晴れ上がった、最高の青空がみんなをでむかえてくれました。お世話になったのは宇都宮市の渡辺昌さんご夫妻。栃木県でも数少ない里芋の専業農家さんです。隊員のみんなは「じっちゃん、ばっちゃん」と呼んでいました。前日の大雨で、畑が水浸しになりそうだったため、前の日のうちに芋を半分収穫して、小屋に入れておいてくれたんですよ。ありがとうございました。

バスを降りてみんなは長靴をはいてスタンバイ。現地で待っていたクチコミ隊の吉澤隊長から里芋についてのお勉強から。「みんなに呼びかけた頃は、茎がこんなふうに長かったんだ。写真にもたくさん葉っぱが写っていただろう。今は茎が枯れてなくなって、芋が土の中で収穫を待っているんだよ」（隊長）

こんどは、気持ちのよい冬晴れの空の下、渡辺さんのダイコン畑に向かいました。こんなあぜ道は歩いたことがありません。みんな長靴をどろんこにして、気分も爽快です。

ダイコンのみごとな葉っぱに、またまたびっくり。泥んこなんか気にせず、子どもが一生懸命抜きました。品川駅まではバスですが、その先はみなさん電車で帰ります。このダイコンの葉を揺らしながら、電車で帰るのですが、それでも２本、３本と抜く家族も。「だってこんな立派なダイコンは東京ではみられないですから」と隊員。

「ずっと深く大きく掘るんだよ」のじっちゃんの言葉に、みんな一生懸命掘りました。

「じゃ、今度はみんながクワをいれてごらん」「よっこいしょっと。出てきた〜」

「里芋はこの畑の中にたくさんあるからね。芋を傷つけないように、周りをクワで掘って、手で掘り出してごらん。親芋に子芋がついて、その子芋に孫芋がついているんだよ」「じゃ、ばっちゃんが見本をみせるからね」。手際の良さはさすがプロ。「さあ、掘って！」

メニューは採れたて野菜をたくさん入れたけんちん汁とコシヒカリのおにぎり。子どもたちも上手におにぎりを握れました。けんちんはスタッフが下準備をしてくれていましたが、味付けはもちろん渡辺家の味付け。ばっちゃんが、みんなのテーブルをまわって味付けをしてくれました。最後に入れるネギは、じっちゃん自慢の新里ネギ。隊員はみんなネギの甘さに感動していました。おにぎりの中には、渡辺家秘伝の自家製みそ。これまた、好評でした。渡辺のじっちゃん、ばっちゃん、おいしいものいっぱい、ありがとうございました。

畑でたくさん里芋を掘ったら、今度は小屋に移動。小屋には昨日のうちに渡辺さんが掘っておいてくれた里芋がたくさん並んでいました。「さあ、みんな分かりますか？　これが孫芋で一番おいしい里芋なんですよ。ねっとりしていて、煮物に最高です。今日はせっかくだから、この孫芋だけを選んで袋詰めして持っていってください」

袋詰めになったらみんなもくもくと真剣。おいしい孫芋を見つけては袋詰めします。

里芋が土の中でこんなかたちで実っていたとは、大人もみんなビックリ！

前回のアンケートの集計結果です。とちぎ農産物クチコミ隊として、約1年半たった1期クチコミ隊と、昨年8月からまだ4カ月めの2期クチコミ隊のみなさんの声です。

子どもたちが農産物に興味を持つことで、家庭での食育ができますね。「子どもがクチコミ隊になってから、野菜や食べ物を残さないようになった」「買い物中に、子どもが産地名をよく聞くようになった」など、うれしい声をたくさんいただきました。1部紹介します。

1．スーパーなどで農産物の買物をするとき、いままで産地を気にしていましたか？

	2期会員(4カ月)	1期会員（16カ月）
1．出来るだけ気にするようにしている	(38.0%)	(55.4%)
2．あまり気にしていなかった	(52.1%)	(40.0%)
3．まったく産地は気にしていなかった	(5.6%)	(4.6%)
4．その他	(4.2%)	(0%)

1期会員も、ちょうど４カ月めのアンケートでは今回の２期会員の数値とほぼ同様でした。１年経った今回は10%増になりました。

2．とちぎ農産物クチコミ隊になってから、農産物の買い物がかわりましたか

	2期会員(4カ月)	1期会員（16カ月）
1．栃木県産を意識するようになった	(28.8%)	(38.5%)
2．どこ産の農産物が気になるようになった	(41.5%)	(50.8%)
3．産地は気にしないが、栃木県産と書いてあると見てしまう	(28.1%)	(7.7%)
4．産地はあまり気にしない	(0.7%)	(3.1%)
5．その他		(0.7%0%)

3．とちぎ農産物クチコミ隊になって、ちびっ子会員に変わったことがありますか？

	2期会員(4カ月)	1期会員（16カ月）
1．スーパーなどでの食材の買い物を一緒に回るようになった	(17.6%)	(16.9%)
2．野菜などの好き嫌いが少なくなった	(7.7%)	(13.8%)
3．「とちぎ」の文字に敏感になった	(54.5%)	(35.4%)
4．特に今までと変わらない	(4.2%)	(29.2%)
5．その他	(16.9%)	(4.6%)

4．栃木県産と他県の農産物がほぼ同様の金額の場合、どちらを購入しますか？

	期会員(4カ月)	1期会員（16カ月）
1．できるだけ栃木県産品を買いたいと思う	(77.4%)	(84.6%)
2．産地は気にせず、見た目で判断する	(16.9%)	(10.8%)
3．その他	(5.8%)	(4.6%)

1期・2期隊員のみなさん、ありがとうございます。この結果は、栃木の農家さんにとって大変な励みになります。みなさんの期待を裏切らないよう、おいしくて安全で安心できる農産物を一生懸命つくりますね。

クチコミ隊になって心がけるようになったことや、子どもの変化は？

■以前は安い物を買っていましたが、今は値段より産地などで選ぶようになりました。他の産地も丁寧に作っているのでしょうが、やはり栃木の農家さんの頑張りを自分の目で見たり聞いたりして知っているので安心な栃木産のものを選びます。

■農産物のプレゼントを頂いた時に、沢山の苦労があってこの野菜のひとつひとつが食べられる…という事を、ことあるごとに子どもに話してきかせていたら、食べ残しが減っていった。

■作っている方の気持ちがわかる様になった事で、子どもも「どこのどんな野菜か、食物かを考えるようになりました。食事の時も、そうした話題がよく出るようになりました。下の子が小さくまだムリですが、上の子とは「とちぎに行きたいね」とよく話しています。

収穫体験ツアーはすごく思い出に残っていて、1年経った今でもその話題になると盛り上がります。野菜だけだとあまり口に入れない子どもが、栃木産のだよと一声かけると、「じゃあおいしいねとパクリ…。栃木様々です！

■雨ばかり降っていた時、雨なんて大嫌いと言っていたけど、このごろ、でも雨も降らないとお米や野菜ができないんだよね。だから降ってもいいよと農作物の四季・天気についてもわかってきた様子。（3才の次男も、キャベツと白菜のちがいが一目でわかってきた）

■なるべく栃木産の農産物を買うようにしています。以前、トマトを買って食べましたが、とても甘くておいしかったです。お肉も栃木和牛を買って食べましたが、肉がやわらかく、子どもにもとっても好評でした。甘くて、牛肉の味がしておいしかったです。お米は、栃木産のコシヒカリが好きで、今食べています。

■栃木と東京は近いので、農産物も遠方の産地のものと比較するとより新鮮でおいしいのではないかという気がしています。子供はやはりどちらかと言えば野菜は好まないのですが、少しずつ意識が変わり、野菜は野菜のおいしさがあることに気づき始めたように思います。

■子どもたちとお世話になったお返しに何ができるか考えた結果、我が家では栃木県産のものを一生懸命買うことにしています。

■クチコミ隊になってからというもの、5才の三男だけでなく18才の長男、13才の次男、そして主人までもが今まで以上に栃木を意識する様になり、話題も増えました。そして、会報を読ませて頂くたびに、農家の方々の熱い思いが伝わってきて、野菜などに対する気持ちが今まで以上により大切に大事にいただこうという様に変わった気がします。本当にクチコミ隊にさせて頂けたことに心から感謝申し上げます。